

(様式第 10)

分大医総病第 50 号
平成 28 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

大分大学医学部附属病院
開設者名 病院長 津村 弘 (印)

大分大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地
氏 名	国立大学法人大分大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

大分大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘一丁目1番地	電話(097)549-4411
----------------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="checkbox"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 神経内科 2 呼吸器内科 3 消化器内科 4 内分泌・糖尿病内科 5 血液内科 6 腎臓内科 7 リウマチ科・内科 8 腫瘍内科 9 循環器内科 10 アレルギー科		
診療実績		

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で

医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名 1 乳腺外科 2 消化器外科 3 形成外科 4 呼吸器外科 5 心臓血管外科 6 小児外科 7 腎臓外科 8 頭頸部外科		
診療実績		

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	15麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名 1 歯科口腔外科 2 3 4 5 6 7		
歯科の診療体制 歯科医師を有する		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 児童精神科	2 神経小児科	3 病理診断科	4 リハビリテーション科	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
30床	0床	0床	0床	588床	618床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月 1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	416人	30人	425.1人	看護補助者	25人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	12人	1人	12.0人	理学療法士	9人	臨床検査技師	51人
薬 剤 師	34人	0人	34.0人	作業療法士	7人	衛生検査技師	0人
保 健 師	1人	0人	1.0人	視能訓練士	5人	その他	0人
助 産 師	23人	0人	23.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	621人	26人	641.0人	臨床工学士	17人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	0人	0人	0.0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	6人
歯科衛生士	2人	0人	2.0人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	164人
管理栄養士	8人	0人	8.0人	診療放射線技師	34人	その他の職員	52人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年10月 1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	19 人	眼 科 専 門 医	13 人
外 科 専 門 医	31 人	耳鼻咽喉科専門医	10 人
精 神 科 専 門 医	9 人	放射線科専門医	15 人
小 児 科 専 門 医	15 人	脳神経外科専門医	11 人
皮 膚 科 専 門 医	6 人	整形外科専門医	12 人
泌尿器科専門医	12 人	麻 醉 科 専 門 医	19 人
産婦人科専門医	15 人	救 急 科 専 門 医	5 人
		合 計	192 人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (病院長 津村 弘) 任命年月日 平成26年12月 1日

<ME機器センター長>

平成18年4月1日～平成20年3月31日

平成20年4月1日～平成22年3月31日

平成22年4月1日～平成26年8月19日

<メディカル・リスクマネジメント委員会の委員>

平成19年7月1日～現在

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	496.7 人	8.8 人	505.5 人
1日当たり平均外来患者数	965.7 人	45.6 人	1,011.3 人
1日当たり平均調剤数			1,825.8 剤
必要医師数			110.372 人
必要歯科医師数			5 人
必要薬剤師数			24 人
必要(准)看護師数			288 人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数	8床	心電計	有・無
集中治療室	236.08 m ²	鉄筋コンクリート	人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
			病床数	8床		
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 81.71m ² [移動式の場合] 台数 19台					
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 45m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	241m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学・免疫・血液自動分析装置 他			
細菌検査室	161m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 血液培養装置, 同定・薬剤感受性検査装置 他			
病理検査室	109m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動免疫染色装置, 顕微鏡など			
病理解剖室	283m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台, 撮影装置など			
研究室	4,464m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン, 机, 顕微鏡 他			
講義室	1,635m ²	鉄筋コンクリート	室数 11 室		収容定員 1,495 人	
図書室	1,703m ²	鉄筋コンクリート	室数 13 室		蔵書数 100,780 冊程度	

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	76.9 %	逆紹介率	61.9 %
算出根拠	A：紹介患者の数		9,615 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,526 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		972 人
	D：初診の患者の数		13,762 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	計画書の提出あり

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	1人
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	1人
自家液体室素処理骨移植	0人
食道アカラシア等に対する経口内視鏡的筋層切開術	2人
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	0人
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 肺癌(扁平上皮肺癌及び小細胞肺癌を除き、病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	2人
FDGを用いたポジトロン断層撮影によるアルツハイマー病の診断	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	超音波気管支鏡ガイド下経気管支リンパ節生検 (EBUS-TBNA)	取扱患者数	36人
当該医療技術の概要 先端に超音波発信器が付属された超音波気管支鏡を用いて、気管・気管支の深層にあるリンパ節をエコーガイド下に穿刺吸引生検、診断を行う。			
医療技術名	超音波プローブおよび気管支鏡ナビゲーションシステム補助下経気管支肺	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 ナビゲーションシステムを用い、病巣との関与が考えられる気管支を同定、気管支鏡検査時間の短縮を図る。ナビゲーションの結果を参考としつつ、超音波プローブを用いて標的病変に確実に的中させ、ガイドシースを留置、同病変からの繰り返し生検を行えるようにする。			
医療技術名	気管支サーモプラスチック	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 気管支鏡に電極付きのカテーテルを挿入し、高周波電流で気管支壁に熱を加えることで、喘息の原因となる肥厚した気道平滑筋の量を健常人に近付け、気管支の収縮を抑制し、発作を起きにくくする。			
医療技術名	悪性黒色腫以外の皮膚悪性腫瘍に対するセンチネルリンパ節生検	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 悪性黒色腫以外の皮膚悪性腫瘍に対してセンチネルリンパ節生検を行うことにより、リンパ節転移の効率的な検索をおこなう。			
医療技術名	超肥満患者や内因性インスリン分泌不良糖尿病肥満患者に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術+十二指腸空腸バイパス術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 肥満患者や内因性インスリン分泌不良糖尿病肥満患者を対象として、腹腔鏡下スリーブ状胃切除術+十二指腸空腸バイパス術(胆膵バイパス術)の安全性と有効性を検討する。			
医療技術名	中等度肥満症に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 コントロール不良な肥満健康障害を有する中等度肥満症(BMI<35kg/m ²)患者に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の安全性と有効性を検討する。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
3	球脊髄性筋萎縮症	56	ベーチェット病	169
29	筋萎縮性側索硬化症	57	特発性拡張型心筋症	118
1	脊髄性筋萎縮症	58	肥大型心筋症	67
0	原発性側索硬化症	59	拘束型心筋症	0
17	進行性核上性麻痺	60	再生不良性貧血	51
217	パーキンソン病	61	自己免疫性溶血性貧血	26
15	大脳皮質基底核変性症	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3
3	ハンチントン病	63	特発性血小板減少性紫斑病	109
0	神経有棘赤血球症	64	血栓性血小板減少性紫斑病	6
6	シャルコー・マリー・トウス病	65	原発性免疫不全症候群	7
174	重症筋無力症	66	IgA腎症	199
0	先天性筋無力症候群	67	多発性嚢胞腎	0
296	多発性硬化症/視神経脊髄炎	68	黄色靱帯骨化症	3
40	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	69	後縦靱帯骨化症	21
3	封入体筋炎	70	広範脊柱管狭窄症	6
0	クローウ・深瀬症候群	71	特発性大腿骨頭壊死症	168
30	多系統萎縮症	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
57	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
0	ライソゾーム病	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
4	副腎白質ジストロフィー	75	クッシング病	62
17	ミトコンドリア病	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
54	もやもや病	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
0	プリオン病	78	下垂体前葉機能低下症	0
1	亜急性硬化性全脳炎	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	10
3	進行性多巣性白質脳症	80	甲状腺ホルモン不応症	0
16	HTLV-1関連脊髄症	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
0	特発性基底核石灰化症	82	先天性副腎低形成症	0
5	全身性アミロイドーシス	83	アジソン病	35
0	ウルリッヒ病	84	サルコイドーシス	406
0	遠位型ミオパチー	85	特発性間質性肺炎	146
0	ベスレムミオパチー	86	肺動脈性肺高血圧症	99
0	自己食空腔性ミオパチー	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
0	シュワルツ・ヤンベル症候群	88	慢性血栓性肺高血圧症	4
9	神経線維腫症	89	リンパ管筋腫症	16
23	天疱瘡	90	網膜色素変性症	75
4	表皮水疱症	91	バッド・キアリ症候群	1
20	膿疱性乾癬(汎発型)	92	特発性門脈圧亢進症	6
15	スティーヴンス・ジョンソン症候群	93	原発性胆汁性肝硬変	901
3	中毒性表皮壊死症	94	原発性硬化性胆管炎	23
1	高安動脈炎	95	自己免疫性肝炎	494
4	巨細胞性動脈炎	96	クローン病	69
45	結節性多発動脈炎	97	潰瘍性大腸炎	196
146	顕微鏡的多発血管炎	98	好酸球性消化管疾患	0
439	多発血管炎性肉芽腫症	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
20	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
31	悪性関節リウマチ	101	腸管神経節細胞減少症	0
10	パージャール病	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
1	原発性抗リン脂質抗体症候群	103	GFC症候群	0
216	全身性エリテマトーデス	104	コステロ口症候群	0
584	皮膚筋炎/多発性筋炎	105	チャージ症候群	8
91	全身性強皮症	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
324	混合性結合組織病	107	全身型若年性特発性関節炎	3
1570	シェーグレン症候群	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
71	成人ステル病	109	非典型溶血性尿毒症症候群	1
9	再発性多発軟骨炎	110	ブラウ症候群	0

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数	
111	先天性ミオパチー	5	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	1	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	12
113	筋ジストロフィー	2	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	2
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	2
117	脊髄空洞症	31	167	マルファン症候群	24
118	脊髄髄膜瘤	15	168	エーラス・ダンロス症候群	3
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	2	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	2	179	ウィリアムズ症候群	2
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	1
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	1	183	ファイファー症候群	2
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	4	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	1
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	1
139	先天性大脳白質形成不全症	1	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	37	191	ウェルナー症候群	2
142	ミオクロニー欠てんかん	0	192	コケイン症候群	3
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	5
144	レノックス・ガストー症候群	9	194	ソトス症候群	8
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	8
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	1
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	1
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	3
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マガニス症候群	0
153	難治類回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	3
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	1	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	4	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	15	208	修正大血管転位症	4
159	色素性乾皮症	6	209	完全大血管転位症	7
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	2

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	1	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	8	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトミクロン血症	1
215	ファロー四徴症	26	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	6	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	3	266	家族性地中海熱	6
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	1
220	急速進行性糸球体腎炎	696	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	9
222	一次性ネフローゼ症候群	309	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	6	271	強直性脊椎炎	23
224	紫斑病性腎炎	18	272	進行性骨化性線維異形成症	1
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	16	274	骨形成不全症	51
227	オスラー病	5	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	7	276	軟骨無形成症	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	15	277	リンパ管腫症/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	3	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	86	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	2	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	3
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	1	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	2	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	11
244	メーブルシロップ尿症	2	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	1
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	2
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスporter-1欠損症	2	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性蔭炎	0
251	尿素サイクル異常症	5	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	68
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	9
254	ホルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	2
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	178
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	16

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・救命救急入院料3
・歯科外来診療環境体制加算	・特定集中治療室管理料2
・歯科診療特別対応連携加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・特定機能病院入院診療基本料(一般病棟7対1)	・小児入院医療管理料2
・特定機能病院入院診療基本料(精神病棟15対1)	・
・急性期脳卒中加算	・
・診療録管理体制加算2	・
・医師事務作業補助体制加算1(50対1補助体制加算)	・
・急性期看護補助体制加算3(50対1)	・
・看護補助加算1(精神病棟のみ)	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・緩和ケア診療加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・感染防止対策地域連携加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・データ提出加算2	・
・退院支援加算2	・
・精神疾患診療体制加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・胎児心エコー法
・高度難聴指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・喘息治療管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・糖尿病合併症管理料	・光トポグラフィ
・がん性疼痛緩和指導管理料	・神経学的検査
・がん患者指導管理料1	・補聴器適合検査
・がん患者指導管理料2	・ロービジョン検査判断料
・がん患者指導管理料3	・コンタクトレンズ検査料1
・外来緩和ケア管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後の場合)	・内服・点滴誘発試験
・糖尿病透析予防指導管理料	・画像診断管理加算2
・ニコチン依存症管理料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	・CT撮影及びMRI撮影
・がん治療連携計画策定料	・冠動脈CT撮影加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・外傷全身CT加算
・薬剤管理指導料	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料1(歯科診療以外)	・乳房MRI撮影加算
・医療機器安全管理料2(歯科診療以外)	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・外来化学療法加算1
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・無菌製剤処理料
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)及び初期加算
・検体検査管理加算(IV)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)及び初期加算
・国際標準検査管理加算	・運動器リハビリテーション料(I)及び初期加算
・遺伝カウンセリング加算	・呼吸器リハビリテーション料(I)及び初期加算
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・がん患者リハビリテーション料
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・精神科作業療法

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・医療保護入院等診療料	・胆管悪性腫瘍手術(臍頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・透析液水質確保加算1	・体外衝撃波胆石破碎術(一連につき)
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・腹腔鏡下肝切除術(部分切除及び外側区域切除)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・腹腔鏡下肝切除術(亜区域切除、1区域切除(外側区域切除を除く。)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・体外衝撃波膀胱石破碎術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下腓骨体尾部腫瘍切除術
・羊膜移植術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術(一連につき)
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・網膜再建術	・同種死体腎移植術
・人工内耳植込術	・生体腎移植術
・植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・膀胱水圧拡張術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及び加算2	・人工尿道括約筋植込・置換術
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・内視鏡下筋層切開術	・胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術)
・経カテーテル大動脈弁置換術	・腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・輸血管管理料 I
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・麻酔管理料(I)
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・麻酔管理料(II)
・補助人工心臓	・放射線治療専任加算(歯科診療以外)
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・外来放射線治療加算(歯科診療以外)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・光トポグラフィー(抑うつ症状の鑑別診断の補助に使用するもの)	・
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・
・羊膜移植術	・
・内視鏡下筋層切開術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	3回/年
剖検の状況	剖検症例数 17例 / 剖検率 9.4%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
1	小児期のホルモンと免疫系細胞・脂肪細胞の分化増殖ネットワークの解明	井原 健二	小児科学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
2	冷却装置付3D・MRIコイルを備えた電磁ホーン型ESR装置による腫瘍イメージング	上田 徹	脳神経外科	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
3	コチニール色素によるアナフィラキシーその検査法の確立と症例解析	竹尾 直子	皮膚科	130,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
4	アルツハイマー病の発症機構における無症候性白質病変の意義の解明	木村 成志	神経内科学	260,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
5	生活習慣病におけるアルドステロンによる治療抵抗性高血圧の発症機構の解明	柴田 洋孝	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
6	水道水リチウムと自殺予防:日本全国を対象とした調査	石井 啓義	精神科	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
7	高分解MRIによる腎周囲リンパ網の解析	松本 俊郎	放射線医学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
8	新規抗酸化剤ETS-GSによる潰瘍性大腸炎治療法の開発	當寺ヶ盛 学	小児外科	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
9	上皮成長因子受容体変異陽性肺癌を対象としたTKI耐性機序の解明	杉尾 賢二	呼吸器・乳腺外科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
10	in vivoモデルのmiRNA発現解析に基づく前立腺癌浸潤機序の解明	佐藤 文憲	腎泌尿器外科学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
11	ギャップ結合からみた過活動膀胱の原因解明とテルミサルタンの新規治療薬への応用	森 健一	腎臓外科・泌尿器科	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
12	子宮内膜における癒痕形成の病態解明と治療法の開発	奈須 家栄	おおいた地域医療支援システム構築事業(産婦人科分野担当)	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
13	精子と子宮内膜の相互作用の解明と新たな着床障害の治療応用に関する研究	河野 康志	産科婦人科学	260,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
14	インフルエンザ菌性慢性中耳炎症病態に対する抗サイトカイン療法および分子標的治療	平野 隆	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
15	Fibronectin ED-A抑制による増殖硝子体網膜症の制御	木許 賢一	眼科学	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
16	フィブロネクチンを活性化するDP-4ペプチドを用いた新規創傷治療法の確立	加藤 愛子	皮膚科学	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
17	EMPs制御から見た腎代替療法における新規膜素材の開発	後藤 孝治	集中治療部	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
18	肥満症とメタボリック症候群における新規ストレス関連脳内因子の解析	正木 孝幸	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
19	膵β細胞特異的TNFα過剰発現マウスを用いた1型糖尿病発症メカニズムの解明	加隈 哲也	内分泌・糖尿病内科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
20	低分化型胃癌における遺伝子異常の網羅的解析	村上 和成	消化器内科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
21	緑膿菌性肺感染症の新しい制御戦略-抗原刺激成熟樹状細胞の移入によるワクチン開発	門田 淳一	呼吸器・感染症内科学	1,300,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
22	RNAiを用いた緑膿菌バイオフィルム感染症に対する新しい治療戦略	平松 和史	医療安全管理部	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
23	表皮角化細胞のPPARα低下は、アトピー性皮膚炎の誘導と悪循環に関与する。	波多野 豊	皮膚科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
24	増殖因子の導入を目的とした新しい創傷治療剤の開発	岡本 修	皮膚科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
25	ナノ炭素複合素材と電界紡糸技術を用いた高生体適合性細径カバードステントの開発	本郷 哲央	放射線医学	910,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
26	遅発性活性酸素が関与する放射線抵抗性獲得機構の解明	菓子野 元郎	先端分子イメージングセンター	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
27	水溶性ビタミンE誘導体の脳保護作用の検討(スピン共鳴解析を用いて)	北野 敬明	麻酔科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
28	敗血症性ショックの機序の解明とリアルタイム測定によるビタミンC補充療法の確立	松本 重清	麻酔科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
29	新規抗酸化物質ETS-GSを用いた次世代脳保護薬の開発	古賀 寛教	麻酔科	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
30	樹状細胞を標的とした経鼻ワクチンの臨床応用に向けた研究	児玉 悟	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
31	尿道組織における細胞外マトリクスが尿禁制に及ぼす機能的、形態学的検討	住野 泰弘	腎臓外科・泌尿器科	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
32	Toll様受容体アゴニストを用いた上気道粘膜免疫誘導と機序の解明	鈴木 正志	耳鼻咽喉科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
33	扁桃周囲膿瘍発症機序解明と予防戦略の確立	渡辺 哲生	耳鼻咽喉科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
34	マイクロRNAを標的とした新しい心筋保護治療の構築	手嶋 泰之	検査部	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
35	口腔扁平上皮癌に対するインテグリン機能を標的とした浸潤・転移抑制療法の確立	河野 憲司	歯科口腔外科学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
36	初期栄養計画の新たな指標としての新生児オートファジー研究	関口 和人	小児科学	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
37	角層pH調節機構の異常がアトピー性皮膚炎を誘発する	酒井 貴史	皮膚科	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
38	光線照射による新規炎症性腸疾患治療法の開発	平塚 孝宏	消化器外科	1,040,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
39	大腸癌におけるVSNL-1発現亢進の機能的意義の解明	赤木 智徳	高度救命救急センター	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
40	新規DAMPsHSPB8に着目した治療応用への挑戦	麻生 結子	消化器・小児外科学	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
41	低酸素PETを用いた脳腫瘍の遺伝子解析と腫瘍幹細胞をターゲットとした治療法の開発	初井 泰朋	脳神経外科	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
42	拡散テンソル画像で双極性障害とうつ病を弁別する試み	秦野 浩司	精神科	650,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
43	脊髄二次性損傷の炎症・免疫制御機構の解明と運動機能再建	内田 晋	脳神経外科	260,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
44	マウス骨肉腫における腫瘍感作、Foxp3発現樹状細胞による抗腫瘍効果	河野 正典	整形外科	2,730,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
45	子宮内膜症におけるアポトーシス受容体DR6の発現低下と病態形成への関与	甲斐 健太郎	産科婦人科学	780,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
46	microRNAは子宮内膜症間質細胞の病態形成に関与する	阿部 若菜	遺伝子診療室	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
47	頭頸部癌における局所免疫応答の解明と新規ワクチンの開発	能美 希	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
48	角膜神経障害に伴う有害事象の時間生物学的予防法の確立	楠瀬 直喜	眼科学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
49	自殺企図患者の血中 ω 3系不飽和脂肪酸に関する研究	帆秋 伸彦	精神神経医学	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
50	c-Mycの異常発現によるエピジェネティクス変化が染色体転座に与える影響	糸永 一朗	整形外科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
51	尿失禁に対する再生療法を目指した線維芽細胞から外尿道括約筋細胞への直接誘導法開発	秦 聡孝	腎泌尿器外科学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
52	家族性弾性線維腫の遺伝子解析、肩運動との関連を求めて	藤原 作平	皮膚科学	4,420,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
53	肥満に高率に合併する心房細動の抑止に向けてレプチンを標的とした新たな治療法	高橋 尚彦	循環器内科・臨床検査診断学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
54	肥満を伴う認知症予防における、脾臓IL-10合成能及び門脈血GLP-1の重要性	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科	2,860,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
55	コケイン症候群における転写調節異常と神経細胞の分化・維持機構への影響	橋本 悟	臨床薬理学	1,820,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
56	腎不全時の降圧治療の個別化を目指した新規バイオマーカーMR-proADMの開発	伊東 弘樹	薬剤部	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
57	組織所見、音叉検査、遺伝子多型からみた抗がん剤による末梢神経障害の発現予測の検討	白尾 國昭	腫瘍・血液内科学	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
58	禁煙後の体重増加における食欲抑制系ホルモンとAMPK、オステオポンチンの作用	阿部 航	医学部附属地域医療学センター	1,170,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
59	劇症型アニサキス症の病態形成機構の解明と原因分子の同定	水上 一弘	消化器内科	2,080,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
60	Leigh脳症におけるミトコンドリア選択的オートファジー活性の検討と治療応用	官原 弘明	小児科	1,950,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
61	エピプラキンの遺伝子の多様性と低分子化機構	石川 一志	皮膚科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
62	微量ナリチウムの抗自殺作用:自殺企図患者の血中ナリチウム濃度を指標とした研究	塩月 一平	精神科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
63	気質から見た双極性障害の病態進展と治療反応性の予測	寺尾 岳	精神神経医学	1,690,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
64	医療画像-感覚情報変換によるマルチモーダル多感覚情報補助下面像診断法の研究開発	田上 秀一	放射線科	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
65	消化管がんの増殖・進展・転移におけるリンパ管侵襲の役割	白石 憲男	医学部附属地域医療学センター	2,340,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
66	粘液産生性細気管支肺胞上皮癌に対する治療戦略	小副川 敦	呼吸器・乳腺外科学	2,860,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
67	神経活動依存的可塑性誘導・再教育を可能にする渦電流収束磁気刺激システムの開発研究	藤木 稔	脳神経外科学	2,860,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
68	DNA修復不均衡による染色体転座と肉腫発生	田仲 和宏	人工関節学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
69	スピンメタボロミクスに関する基礎的検討および臨床応用	新宮 千尋	手術部	2,210,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
70	慢性炎症を基盤とする病態におけるヒト外尿道括約筋の脆弱化機序の解明と治療法の開発	三股 浩光	腎泌尿器外科学	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
71	子宮内膜症において発現が増強しているmiR-210の意義に関する研究	檜原 久司	産科婦人科学	2,470,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
72	早産児の自発運動・姿勢評価:発達障害要因軽減を目指したケアへの応用	前田 知己	小児科学	1,430,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
73	慢性腎不全患者に肝代謝型薬物の用量調節は必要か? -CYP3A活性低下の要因探索	鈴木 陽介	薬剤部	2,340,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
74	糖尿病における血糖変動は、糖尿病性心筋症を促進するか	齋藤 聖多郎	検査部	1,560,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会

No	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
75	膠原病様モデルマウスを用いたT細胞活性化をもたらす新規脂質メディエータの同定	尾崎 貴士	膠原病内科	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
76	角層pH上昇は、表皮内神経伸長反応を促進する	伊藤 亜希子	皮膚科	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
77	うつ病における近赤外線光照射研究	兼久 雅之	精神科	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
78	光療法は神経新生を促進するか? : FDG-PET研究	河野 健太郎	精神神経医学	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
79	Driver遺伝子変異を有する肺癌における、空間・時間的な腫瘍内不均一性の解明	橋本 崇史	呼吸器外科	1,820,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
80	全身性炎症反応における体内時計制御を目的とした新たな光療法の開発	小山 淑正	手術部	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
81	アンギオポエチン様因子2が前立腺癌細胞の悪性化に与える影響についての研究	佐藤 竜太	腎臓外科・泌尿器科	2,340,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
82	エストロゲン受容体βからみた非細菌性慢性前立腺炎の病態解明	溝口 晋輔	腎臓外科・泌尿器科	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
83	新規シェーグレン症候群モデル「TRAF6欠損マウス」の病態基盤解析と治療開発	中野 聡子	眼科	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
84	高血圧及び糖尿病合併心房細動における心脾連関	近藤 秀和	検査部	1,950,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
85	乳酸菌による体細胞の多能性能獲得過程におけるエピゲノム解析	河野 利恵	呼吸器内科	1,950,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会

計 85 件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	酒井貴史	皮膚科	Atopic dermatitis-like dermatitis emerges unevenly on different sites in flaky tail mice.	J Dermatol Sci 78(2),151-153,2015
2	酒井貴史	皮膚科	Knockdown of either filaggrin or loricrin increases the productions of interleukin (IL)-1 α , IL-8, IL-18 and granulocyte macrophage colony-stimulating factor in stratified human keratinocytes.	J Dermatol Sci 80(2),158-160,2015
3	清水史明	形成外科	Choice of recipient vessels for nasal ala reconstruction using a free auricular flap.	J Plast Reconstr Aesthet Surg 68(7),907-913,2015
4	清水史明	形成外科	Effect of concurrent mental nerve reconstruction at the same time as mandibular reconstruction using a fibula osteoseptocutaneous flap.	J Plast Reconstr Aesthet Surg 68(9),1228-1234,2015
5	伊藤亜希子	皮膚科	Association between HLA-DRB1*0405, -DQB1*0401 and -DQA1*0303 alleles and lamotrigine-induced cutaneous adverse drug reactions. A pilot case-control study from Japan.	J Affect Disord 179,47-50,2015
6	清水史明	形成外科	Successful reconstruction after radical resection of arteriovenous malformation of the finger and toe using microsurgery	J Plast Reconstr Aesthet Surg global open 5,34-40,2015
7	島田浩光	皮膚科	Lichen planus pemphigoides concomitant with rectal adenocarcinoma: fortuitous or a true association?	Eur J Dermatol 25(5),501-503,2015
8	広瀬晴奈	皮膚科	Multiple malignant changes and recurrent infections in the skin associated with long-term exposure to ultraviolet light and topical psoralen plus ultraviolet A therapy	J Dermatol 42(5),536-537,2015
9	生野知子	皮膚科	Case of alopecia areata accompanied by polymyalgia rheumatica	J Dermatol 42(9),939-940,2015
10	平野 隆	耳鼻咽喉科	Repair of a large pharyngocutaneous fistula with a free jejunal patch flap after salvage laryngectomy: A case report	Microsurgery 1-5,2015
11	平野 隆	耳鼻咽喉科	Accumulation of Regulatory T Cells and Chronic Inflammation in the Middle Ear in a Mouse Model of Chronic Otitis Media with Effusion Induced by Combined Eustachian Tube Blockage and Nontypeable Haemophilus influenzae Infection.	Infection and immunity ! 84(1),356-364,2016

小計 11

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
12	佐藤 雄己	薬剤部	Significance of High Trough Concentration of Teicoplanin in the Treatment of Methicillin-Resistant Staphylococcus aureus Infection.	Chemotherapy 60(4),274-278,2015
13	鈴木 陽介	薬剤部	CYP3A5 polymorphism affects the increase in CYP3A activity after living kidney transplantation in patients with end stage renal disease.	British Journal of Clinical Pharmacology 80(6),1421-1428,2015
14	佐藤 雄己	薬剤部	Effect of goshajinkigan, a Japanese herbal medicine, on the plasma neuropeptides in humans	Clinical Research and Trial 1(2),34-37,2015
15	鈴木 陽介	薬剤部	Association of metabolic complications with plasma mid-regional pro-adrenomedullin level in stable kidney transplant recipients	Clinica Chimica Acta 453,160-163,2016
16	金子 哲也	薬剤部	Performance characteristics between TDx®FLx and TBA™-25FR for the therapeutic drug monitoring of methotrexate.	Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 2(7),1-5.,2016
17	小副川 敦	呼吸器外科	Prognostic Factors for Survival after Resection of Pulmonary Metastases from Colorectal Carcinoma.	Ann Thorac Cardiovasc Surg 22(1),6-11,2016
18	亀井 美玲	乳腺外科	A case of breast cancer involving a ventriculoperitoneal shunt.	Surg Case Rep 2,2016
19	末廣 修治	乳腺外科	The clinical manifestations and treatment of male breast cancer: a report of three cases.	Surg Case Rep 1,2015
20	亀井 美玲	乳腺外科	Adenomyoepithelioma of the breast coexisting with ductal carcinoma in situ: a case report and review of the literature.	Surg Case Rep 1,2015
21	井上 綾子	精神科	Association of TMEM132D, COMT, and GABRA6 genotypes with cingulate, frontal cortex and hippocampal emotional processing in panic and major depressive disorder	International Journal of Psychiatry in Clinical Practice 19(3),192-200,2015
22	井上 綾子	精神科	Gender determines cortisol and alpha-amylase responses to acute physical and psychosocial stress in patients with borderline personality disorder	Psychiatry Research ! 228(1),46-52,2015
23	藍澤 早恵子	精神科	Genetic association of the transcription of neuroplasticity-related genes and variation in stress-coping style	Brain and Behavior 5(9),e00360,2015
24	平川 博文	精神科	The Effects of Carbamazepine and Lithium Combination on Serious Aggression and Anger Outbursts in a Case of Seronegative Limbic Encephalitis.	Prim Care Companion CNS Disorders ! 17(5),e373,2015

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
25	塩月 一平	精神科	Trace lithium is inversely associated with male suicide after adjustment of climatic factors	Journal of Affective Disorders 189,282-286,2016
26	平川 博文	精神科	Coexistence of Delusional Parasitosis and Complex Visual Hallucinations With Micropsia	The Journal of Neuropsychiatry and Clinical Neurosciences 28(1),e10-2,2016
27	森 健一	腎泌尿器外科学	Age-related changes in bladder function with altered angiotensin II receptor mechanisms in rats.	Neurourol Urodyn 2015
28	甲斐 友喜	腎泌尿器外科学	Kidney-specific knockout of Sav1 in the mouse promotes hyperproliferation of renal tubular epithelium through suppression of the Hippo pathway.	J Pathol 239(1),97-108,2016
29	高野 久仁子	血液内科	Pre-transplant diabetes mellitus is a risk factor for non-relapse mortality, especially infection-related mortality, after allogeneic hematopoietic SCT	Bone Marrow Transplant 50(4),553-558,2015
30	池邊 太一	血液内科	Anuric Acute Kidney Injury due to Bladder Tamponade in a patient with acquired Hemophilia A	Jacobs Journal of Clinical Case Reports 1(4),20,2015
31	池邊 太一	血液内科	Bilateral psoas muscle lymphoma: an unusual presentation of EBV-positive diffuse large B-cell lymphoma of the elderly.	Int J Hematol 102(5),509-510,2015
32	河野 正典	整形外科	Dendritic cells combined with doxorubicin induces immunogenic cell death and exhibits antitumor effects for osteosarcoma.	Oncol Lett. 11(3),2169-2175,2016
33	田仲 和宏	整形外科	Tumor suppressive microRNA-138 inhibits metastatic potential via the targeting of focal adhesion kinase in Ewing's sarcoma cells.	Int J Oncol. 48(3),1135-1144,2016
34	河野 正典	整形外科	c-Myc Represses Tumor-Suppressive microRNAs, let-7a, miR-16 and miR-29b, and Induces Cyclin D2-Mediated Cell Proliferation in Ewing's Sarcoma Cell Line.	PLoS One 10(9),e0138560,2015
35	加来 信広	整形外科	Influence of cup-center-edge angle on micro-motion at the interface between the cup and host bone in cementless total hip arthroplasty: three-dimensional finite element analysis.	Eur J Orthop Surg Traumatol 25(8),1271-1277,2015
36	河野 正典	整形外科	microRNA-93 promotes cell proliferation via targeting of PTEN in Osteosarcoma cells.	J Exp Clin Cancer Res 5(34),76,2015
37	河野 正典	整形外科	Dendritic cells combined with anti-GITR antibody produce antitumor effects in osteosarcoma.	Oncol Rep 34(4),1995-2001,2015

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
38	宮崎 正志	整形外科	Prevalence and distribution of thoracic and lumbar compressive lesions in cervical spondylotic myelopathy.	Asian Spine J 9(2),218-224,2015
39	岩崎 達也	整形外科	Tumor-suppressive microRNA-let-7a inhibits cell proliferation via targeting of E2F2 in osteosarcoma cells.	Int J Oncol 46(4),1543-1550,2015
40	田畑 知法	整形外科	Initial stability of cementless acetabular cups: press-fit and screw fixation interaction--an in vitro biomechanical study.	Eur J Orthop Surg Traumatol 25(3),497-502,2015
41	加来 信広	整形外科	Mechanical evaluation of hip cement spacer reinforcement with stainless steel Kirschner wires, titanium and carbon rods, and stainless steel mesh.	Eur J Orthop Surg Traumatol 25(3),489-96,2015
42	串間尚子	呼吸器内科	Effects of Sulfamethoxazole-Trimethoprim on Airway Colonization with Pneumocystis jirovecii.	Japanese journal of infectious diseases 69(3),252-255,2016
43	山末まり	呼吸器内科	Sarcoidosis Presenting as Bilateral Vocal Cord Paralysis due to Bilateral Vagal Nerve Involvement.	Internal medicine 55(9),1229-1233,2016
44	山末まり	呼吸器内科	Comet Tail Sign in IgG4-related Disease	Internal medicine 55(2),213-214,2016
45	山末まり	呼吸器内科	Congenital Cystic Adenomatoid Malformation in Adults.	Internal medicine 54(23),3097-3098,2015
46	兒玉 雅明	消化器内科	Endoscopic atrophic classification before and after H. pylori eradication is closely associated with histological atrophy and intestinal metaplasia.	Endoscopy International Open 3(4),311-317,2015
47	本田 浩一	消化器内科	Benefits of nucleos(t)ide analog treatments for hepatitis B virus-related cirrhosis	World Journal of Hepatology 7(22),2404-2410,2015
48	村上 和成	消化器内科	Vonoprazan, a novel potassium-competitive acid blocker, as a component of first-line and second-line triple therapy for Helicobacter pylori eradication: a phase III, randomised, double-blind study.	Gut 1-8,2016
49	中川 幹子	循環器内科・臨床 検査診断学講座	Stored intracardiac electrograms reveal patients with sick sinus syndrome frequently develop atrioventricular block.	Circulation Journal 79(6),1199-1200,2015
50	油布 邦夫	循環器内科・臨床 検査診断学講座	Endothelial Function Predicts New Hospitalization due to Heart Failure Following Cardiac Resynchronization Therapy.	Pacing Clin Electrophysiol 38(11),1260-1266,2015

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
51	齋藤 聖多郎	循環器内科・臨床検査診断学講座	Glucose Fluctuations Aggravate Cardiac Susceptibility to Ischemia/Reperfusion Injury by Modulating MicroRNAs Expression.	Circulation Journal 80(1),186-195,2015
52	塩田 星児	総合内科・総合診療科	Prevalence of Barrett's Esophagus in Asian Countries: A Systematic Review and Meta-analysis.	Clin Gastroenterol Hepatol 13(11),1907-1918,2015
53	塩田 星児	総合内科・総合診療科	Antibiotic Resistance of Helicobacter pylori Among Male United States Veterans.	Clin Gastroenterol Hepatol 13(9),1616-1624,2015
54	青木 宏平	腎臓内科	Role of Indoxyl Sulfate as a Predisposing Factor for Atrial Fibrillation in Renal Dysfunction.	J Am Heart Assoc. 4(10),e002023,2015
55	尾崎 貴士	膠原病内科	Large-vessel involvement in granulomatosis with polyangiitis successfully treated with rituximab: A case report and literature review.	Mod Rheumatol 2,2015
56	土師 恵	神経内科	Evaluation of regional cerebral blood flow in Alzheimer's disease patients with subclinical hypothyroidism.	Dement Geriatr Cogn Disord. 39(5-6),360-7,2015
57	楠瀬 直喜	眼科	Mitomycin C modulates the circadian oscillation of clock gene period 2 expression through attenuating the glucocorticoid signaling in mouse fibroblasts	Biochemical and Biophysical Research Communications 467(1),157-163,2015
58	内田 博喜	消化器・小児外科	Surgical Outcomes of Laparoscopic Liver Resection in Elderly Patients: A Comparative Study From a Single Center.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech 25(4),e109-112,2015
59	藤島 紀	消化器・小児外科	Laparoscopic treatment for inguinal hernia combined with cryptorchidism: Totally extraperitoneal repair with orchiectomy under the same operative view	International Journal of Surgery Case Reports 17,79-81,2015
60	衛藤 剛	消化器・小児外科	Success rate of informed consent acquisition and factors influencing participation in a multicenter randomized controlled trial of laparoscopic versus open surgery for stage II/III colon cancer in Japan (JCOG0404).	Asian J Endosc Surg 8(4),419-423,2015
61	白下 英史	消化器・小児外科	Prognostic Factors in Advanced Gastric Cancer Patients With Suprapancreatic Lymph Node Metastasis	Journal of Gastrointestinal cancer and stromal tumor 1(1),Open Access,2016
62	白下 英史	消化器・小児外科	A gastrointestinal stromal tumor at the esophagogastric junction successfully treated by laparoscopic wedge resection with seromuscular layer dissection: a case report.	Surgical Case Reports 1(89),Open Access,2015
63	内田 博喜	消化器・小児外科	Benefit of laparoscopic liver resection in high body mass index patients.	World J Gastroenterol. 22(10),3015-3022,2016

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
64	宮原 弘明	小児科	Overexpression of p53 but not Rb in the cytoplasm of neurons and small vessels in an autopsy of a patient with Cockayne syndrome	Neuropathology 35(3),266-272,2015
65	岡成 和夫	小児科	Rapid eye movement sleep reveals epileptogenic spikes for resective surgery in children with generalized interictal discharges.	Epilepsia. 56(9),1445-1453,2015
66	上村 尚人	臨床薬理	Effects of the orexin receptor antagonist suvorexant on respiration during sleep in healthy subjects.	Journal of Clinical Pharmacology 55(10),1093-1100,2015
67	甲斐 由布子	産科婦人科	A possible role for AMP-activated protein kinase activated by metformin and AICAR in human granulosa cells.	Reprod Biol & Endocrinol 13(1),1-8,2015
68	甲斐 健太郎	産科婦人科	Estimating the Radiation Dose to the Fetus in Prophylactic Internal Iliac Artery Balloon Occlusion: Three Cases.	Case Rep Obstet Gynecol 170343,2015
69	矢野 光剛	産科婦人科	Pericardial calcification in the foetus: a case report and review of the literature.	J Obstet Gynaecol 36(1),62-63,2015
70	森 宣	放射線科	Diagnostic Utility of Reduced Radiation Dose Non-Contrast-Enhanced CT with Iterative Reconstruction for Screening in High-Risk Individuals with Pancreatic Cancer: An Anthropomorphic Phantom Study.	Pancreatic Disorders & Therapy 5(3),161-166,2015
71	岡田 文人	放射線科	Chest HRCT findings in acute transformation of adult T-cell lymphoma/leukemia.	European Radiology 25(6),1607-1613,2015
72	小橋川 新子	放射線科	Gemcitabine Induces Radiosensitization Through Inhibition of RAD51-dependent Repair for DNA Double-strand Breaks.	Anticancer Res. 35(5),2731-2737,2015
73	小橋川 新子	放射線科	Ionizing radiation-induced cell death is partly caused by increase of mitochondrial reactive oxygen species in normal human fibroblast cells.	Radiat Res. 183(4),455-464,2015
74	山田 康成	放射線科	Lymphatic pathway around the pancreatic head and extrahepatic bile duct: evaluation using MR imaging at 3.0-T.	Abdom Imaging. 40(6),1617-1628,2015
75	清末 一路	放射線科	Artery of the Superior Orbital Fissure: An Undescribed Branch from the Pterygopalatine Segment of the Maxillary Artery to the Orbital Apex Connecting with the Anteromedial Branch of the Inferolateral Trunk.	Am J Neuroradiol. 36(9),1741-1747,2015
76	佐藤 晴佳	放射線科	A Case of Diffuse Alveolar Septal Amyloidosis Associated With Multiple Myeloma.	Journal of Thoracic Imaging 30(6),73-75,2015

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
77	竹中 隆一	救命救急医学	Chromobacterium haemolyticum Pneumonia Possibly Due to the Aspiration of Runoff Water.	Jpn J Infect Dis 68(6),526-529,2015

小計 1
計 77

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 目的と適用範囲、組織・構成、設置者の責務、委員会の責務、委員会の運営、委員会事務局の業務、及び記録の保管について規定している。内容は、ヘルシンキ宣言及び人を対象とする医学系研究に関する倫理指針にすべて対応するものとして整備している。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 マネジメントの対象、委員会、審査内容、手続き等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年22回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 臨床研究の責任者・分担者を必須受講者として、講演による講習を行っている。その他研究支援業務や倫理審査委員会委員、また間接的に研究に関わる者についても基本的には必須としている。内容は、研究倫理の歴史、倫理的な問題のある具体例の解説、指針が改訂された場合にはその主なポイントの解説を行っている。	

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

内視鏡外科専門医育成プログラム
 呼吸器外科専門医育成プログラム
 内分泌・糖尿病内科専門医育成プログラム ほか

2 研修の実績

研修医の人数	77.0 人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
重光 修	救急科	教授	35年	
河野 憲司	歯科口腔外科	教授	29年	
猪股 雅史	消化器外科, 小児外科	教授	28年	
久保田 敏昭	眼科	教授	34年	
杉尾 賢二	呼吸器外科, 乳腺外科	教授	34年	
吉川 裕喜	呼吸器内科	助教	12年	
三股 浩光	腎臓外科・泌尿器科	教授	32年	
榎原 久司	産科婦人科	教授	33年	
鈴木 正志	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	32年	
白尾 國昭	腫瘍内科	教授	30年	
高橋 尚彦	循環器内科	教授	29年	
井原 健二	小児科	教授	28年	
沖本 忠義	消化器内科	助教	24年	
花岡 拓哉	神経内科	助教	18年	プログラム別
木村 成志	神経内科	准教授	20年	プログラム別
柴田 洋孝	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学	教授	28年	
糸永 一朗	整形外科	講師	25年	
宮崎 英士	総合内科・総合診療科	教授	33年	
藤木 稔	脳神経外科	教授	30年	
波多野 豊	皮膚科	准教授	24年	
森 宣	放射線科	教授	38年	
白尾 國昭	血液内科	教授	30年	
和田 朋之	心臓血管外科	准教授	25年	
北野 敬明	麻酔科	教授	32年	
寺尾 岳	精神科	教授	31年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
【ME機器センター】 ・研修の主な内容 ①ME機器講習会（全職員対象）、②看護部ME機器研修、③その他研修会 ・研修の期間・実施回数 ①2015/5/7～5/27、12/2～12/17（各5回）、②2015/5/11～5/12（2回）、③2015年度12回 ・研修の参加人数 ①596名、593名、②60名、③306名 【看護部】 別紙1のとおり 【放射線部】 別紙2のとおり
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 新採用者オリエンテーションにより、「個人情報保護」、「院内感染対策」、「医療安全管理」等、本院において医療業務に携わる上で、各職員が必ず習得しておくべき基本的かつ重要な事項について周知・徹底している。 ・研修の期間・実施回数 平成27年4月1日（水）～平成27年4月2日（木） ※採用者が次第、各部門にて随時実施 ・研修の参加人数 91名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

年度別研修実績

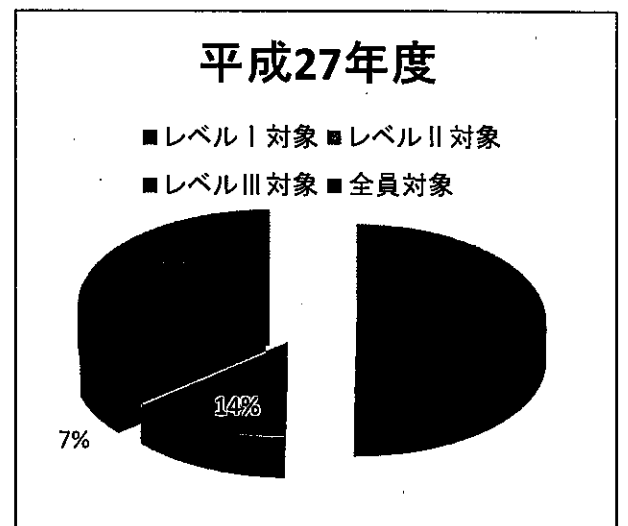
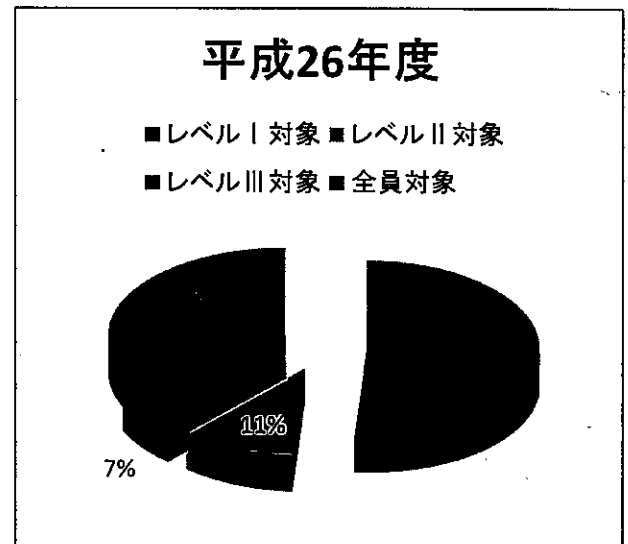
対象年度:H27年度

研修名	人数	時間
新人看護職員研修		
新採用・サービスマナー・倫理	63	8
新人・フレッシュ研修	60	8
新人・リフレッシュ研修	60	8
新人・1ラウンドフォローアップ	60	8
新人・2ラウンドフォローアップ	60	8
新人・1年目フォローアップ	60	16
技術演習	60	48
ME研修	63	16
薬の知識	60	2
褥瘡予防	58	2
新採用・医療安全管理	60	8
新採用・感染管理	60	8
BLS研修	61	8
看護過程I	61	48
コミュニケーション基礎編	60	16
レベルII	939	212
研修名	人数	
看護過程II(LII)	39	16
リーダーI(LII)	63	16
実地指導者研修	16	24
医療安全管理 レベルII	63	4
感染管理 レベルII	64	4
レベルII研修	245	64
研修名	人数	
看護過程III(LIII)	17	8
リーダーII(LIII)	15	8
事例検討・ベナー(LIII)	17	8
教育担当者研修	14	24
医療安全管理 レベルIII	18	16
感染管理 レベルIII	26	4
リフレクティブ研修	10	88
リフレクティブ研修フォローアップ	8	8
レベルIII	105	104
研修名	人数	
コミュニケーションスキル	6	6
看護と倫理	9	8
フィジカルアセスメントII	13	8
論理的思考	16	8
緩和ケアI	24	2
急性重症看護	47	2
がん看護	23	2
心電図の基礎知識(日本光電)	54	6
心電図の基礎知識(不整脈)	30	6
心電図の知識(虚血)	16	6
皮膚排泄ケア	15	4
フィジカルアセスメントI	58	1.5
摂食嚥下障害看護I	27	4
災害看護(救急看護)	35	2
がん化学療法看護I	19	2
周術期看護	50	2
糖尿病看護I	40	4
集中ケアII(人工呼吸器装着中の看護)	32	4
老年看護(1日)	3	6
老年看護(半日)	11	3
自主研修	528	86.5

レベル別受講者数	H26
レベルI対象	939
レベルII対象	194
レベルIII対象	127
全員対象	578
受講者総数	1838

レベル別受講者数	H27
レベルI対象	906
レベルII対象	245
レベルIII対象	125
全員対象	528
受講者総数	1804

注) 全員対象:自主研修



別紙 2

放射線部別紙：

対象：平成 27 年度

様式第 4 高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

①医療従事者に対する研修の実施状況

(1)放射線業務従事者教育訓練講習会

⇒放射線管理区域に入って放射線診療を行う者に対して、法令に基づき教育訓練研修を受ける必要がある。

新規対象者	第 1 回：平成 27 年 4 月 23 日	参加者：	83 名
	第 2 回：平成 27 年 6 月 17 日	参加者：	43 名
	第 3 回：平成 27 年 10 月 16 日	参加者：	33 名
更新者対象者	第 1 回：平成 27 年 5 月 20 日	参加者：	124 名
	第 2 回：平成 27 年 7 月 24 日	参加者：	39 名
	第 3 回：平成 27 年 9 月 16 日	参加者：	20 名

(2)医療技術部教育研修会

⇒医療技術部職員を対象にして「誰もが聴いてくれるプレゼンのポイント」というテーマで研修した。

- ・平成 27 年 9 月 30 日、17:30～18:30 場所：高度救命救急センター4 階大会議室
- ・参加者 81 名 講師：濱田智広(医療技術部放射線部門技師長)

(3)大分大学 SD 事業 医療技術部研修

⇒スタッフ・ディベロプメント事業の一環として、医療技術部では接遇研修を行った。

テーマは、感情のマネジメント「アンガーマネジメントについて」にした。

- ・平成 28 年 2 月 6 日 13:00～15:00 場所：看護学棟 212 講義室
- ・参加者：53 名 講師：野津浩嗣(アニメートエンタープライズ)

(4)放射線技師新人研修

⇒平成 27 年度新採用となった 4 名の新人技師に対し Off-JT 方式の講義研修を行った。

- ・平成 27 年 4 月 1 日：放射線部オリエンテーション
- ・平成 27 年 4 月 8 日：病院の理念と基本方針
- ・平成 27 年 4 月 19 日：大分大学附属病院安全管理マニュアル
- ・平成 27 年 6 月 9 日：MRI 検査安全教育用 DVD
- ・平成 27 年 5 月 12 日：放射線部教育システム
- ・平成 27 年 5 月 19 日：放射線部安全管理マニュアル
- ・平成 27 年 6 月 24 日：社会人のマナー
- ・平成 27 年 6 月 26 日：接遇のあり方

- ・平成 27 年 7 月 30 日：医療倫理の基礎知識
- ・平成 27 年 8 月 25 日：放射線における医療安全の確保
- ・平成 27 年 9 月 15 日：ヒューマンエラー

(5)部内医療安全研修

⇒部内に発足している医療安全推進委員会ならび医療機器安全管理委員会による医療安全のための職員研修会を実施した。教材：動画で見る医療安全 放射線部門の危険予知

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	診療記録管理責任者 柴田洋孝	
管理担当者氏名	医療情報部長, 総務課長, 医事課長, 放射線部長, 医療安全管理責任者, 医薬品安全管理責任者, 医療機器安全管理責任者, 各診療科長	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医事課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	医療情報部
		手術記録	医療情報部
		看護記録	医療情報部
		検査所見記録	医療情報部
		エックス線写真	放射線部
		紹介状	医療情報部
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究・社会連携課 総務課
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課 (医療安全管理部)
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課 (医療安全管理部)
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課 (医療安全管理部)
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課 (医療安全管理部)

カルテ等病歴資料は、外来・入院別に一患者一ファイル方式で、コンピュータによる集中管理を行っている。また、エックス線写真は放射線部にて管理しており、共に永久保存を原則としている。診療録の病院外への持ち出しについては、診療録の取扱いに関する手引きにより禁止している。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課 (感染制御部)
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課 (感染制御部)
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課 (感染制御部)
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課 (感染制御部)
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器安全管理 専門委員会
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器安全管理 専門委員会
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器安全管理 専門委員会		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課 (感染制御部)
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課 (医療安全管理部)
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	総務課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	総務課
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課 (医療安全管理部)
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課 (医療安全管理部)
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課 (医療安全管理部)
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課
		職員研修の実施状況	医事課 (医療安全管理部)
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課 (医療安全管理部)		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状	
閲覧責任者氏名	医学・病院事務部長 原 博文		
閲覧担当者氏名	総務課長 安東 ゆか		
閲覧の求めに応じる場所	第2会議室		
閲覧の手続の概要			
・ 閲覧を希望する者は、総務課に申し込みを行う。			
・ 閲覧担当者は、閲覧を希望する者を閲覧場所の第2会議室に案内し、閲覧いただく。			

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 医療安全に関する基本的考え方2. 医療安全管理に係る体制確保のための組織等3. 医療安全管理に係る職員の教育・研修4. 医療事故発生時の対応5. 医療事故等の報告及び改善策の立案6. 院内死亡全例の報告及び検証7. 当該指針の閲覧8. 患者相談に関する基本方針9. その他（医療安全管理マニュアル及び改善策の見直し、医療安全対策の推進を図る機関への報告等）	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）・ 開催状況：年 1 2 回・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 医療安全管理指針及び医療安全管理マニュアルの策定及び見直しに関すること。2. 医療事故の判定に関すること。3. 医療安全管理に関する改善策に関すること。4. 医療安全管理のための職員研修に関すること。5. 医事紛争に関すること。6. その他医療安全管理上の重要事項に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 5 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 第 1 回 M E 機器講習会2. 第 1 回 薬剤セミナー3. 集中立入検査と医療事故調査制度4. 第 2 回 M E 機器講習会5. システム変更に伴う医療安全上の問題と対策	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機関内における事故報告等の整備（ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ）・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 事故（インシデント）報告については、調査・分析を行い、改善策の立案を行っている。 全体で共有すべき事例や新たに策定した安全対策については、毎月開催される病院運営委員会及びリスクマネージャー連絡会で周知し、全体に対しては、リスクマネージャーを通して周知を図っている。2. 定期的に院内ラウンドを実施し、安全情報等の周知状況や安全確認手順の実施検証及び指導・助言を行っている。	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 院内感染に対する基本的考え方2. 院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本的事項3. 院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本的方針4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針6. 患者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針7. その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 感染予防対策の確立2. 感染予防の実施、監視及び指導3. 感染源の調査4. 感染予防対策に関する情報の収集5. その他感染予防に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 院内で注意が必要な細菌・ウイルスと感染対策2. 難治性潰瘍重症化を防ぐために必要なもの3. システム変更と感染症の情報共有について4. 特定抗菌薬使用における重要なこと～届出とTDMを中心に～、もう一度、感染対策を見直そう	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 院内の菌検出状況や感染症患者の状況を電子カルテシステム内の感染制御システムで管理している。主要な感染菌の検出状況や感染者情報については毎月報告を行っている。2. 抗菌薬の使用状況やTDM実施状況についても定期的に報告を行っており、注意を要する抗菌薬については届出制とし、感染制御部の介入を実施している。3. 感染制御部による院内ラウンドを定期的に行い、標準予防策や感染対策の実施状況の確認、指導を行っている。また、各種感染症サーベイランスも行っており、定期的に報告を行っている。4. マニュアル変更や院内感染対策の重要情報については、病院運営委員会及び病院連絡会を通じて周知を図るとともに、感染制御部ニュースを発行し各部署へメール配信している。	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年6回 (ビデオセミナーを含む)
・ 研修の主な内容： ○コ・メディカル新採用者オリエンテーション（対象：コ・メディカル新採用者） ○静脈注射研修会（対象：新人看護師） ○「薬の知識」研修会（対象：新人看護師） ○医療安全管理セミナー（対象：全職員）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ 業務の主な内容： 全病棟・部門を対象に手順書に基づく業務の実施状況調査を行っている。 確認内容については、記録を保管している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （ <input checked="" type="checkbox"/> 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 得られた情報のうち必要なものについては医薬品を取り扱う職員に対して周知する。DIニュース（月1回発行）、薬剤部便り（月1回発行）、その他必要に応じて通知文書として配布している。	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年16回
<ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">○新しい医療機器の導入時研修：生命維持管理装置やセントラルモニタなど○全職員を対象とした定期研修：年2回、ME機器講習会としてトラブルシューティングや安全性情報に関連した内容、不具合情報の報告制度などを周知（ビデオセミナーとして各5回実施している）○新入職者の医師・看護師へのME機器研修：生命維持管理装置や臨床現場で早期に使用する可能性が高い輸液ポンプ等の使用方法やトラブルシューティング、操作実習○各部署で使用する可能性のある生命維持管理装置の定期研修○研修希望のあった部署に対する医療機器の操作方法、トラブルシューティング方法	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)・ 保守点検の主な内容： 毎年3月に医療機器安全管理専門委員会にて、生命維持管理装置や診療用高エネルギー放射線発生装置などの医療機器、院内全体で使用している輸液ポンプなどについて、点検の実施状況の確認と来年度の定期点検時期が記載された計画の承認を行っている。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容： PMDAメディナビ等の情報を医療機器・医療材料担当係が窓口となり、対象物品や対象部署の特定を行うとともに医療機器安全管理責任者に連絡し、対応や報告を行っている。最終的に病院長及び医療安全管理責任者への報告と医療機器安全管理専門委員会への報告を行っている。 医療機器を納入する際には、納品日前に医療機器マスター登録書に必要事項を記入の上、用度第二係もしくはME機器センターに提出させる。医療機器安全管理システムのマスター登録において、同一機種がない場合には新規導入の可能性があるため、導入時研修を実施している。	

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>大分大学医学部附属病院医療安全管理体制に関する細則第 3 条において、「医療安全管理責任者を置き、副病院長（安全管理担当）をもって充て、医療安全管理責任者は、医療安全管理部、メディカル・リスクマネジメント委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括する。」旨規定している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有（3名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 以下により医薬品に関する情報の収集および整理を行う。</p> <ul style="list-style-type: none">・医薬品医療機器等安全性情報・医薬品製造販売業者からの情報提供・臨床研究審査委員会からの情報収集（未承認医薬品、適応外使用）・薬剤部における調剤および薬剤管理指導業務時の情報収集（禁忌）・その他各種文献より得られた情報のうち必要なものについてはDIニュース（月 1 回発行）、薬剤部便り（月 1 回発行）、その他必要に応じて通知文書等により周知する。 <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 薬剤師が調剤および薬剤管理指導業務時に未承認等の医薬品の使用（適応外使用、禁忌）を知りえた場合には、薬学的知見に基づき、処方した医師に対して処方の必要性や論文等の根拠に基づくリスク検討の有無、処方の妥当性等を確認する。必要に応じて、処方医に対して処方の変更等の提案を行う。また、未承認等の医薬品を使用する際には、臨床研究審査委員会へ申請・審議する。医薬品安全管理責任者から指名された担当薬剤師は、薬剤部各部門より月 1 回、医薬品使用の情報（添付文書情報、緊急安全性情報、安全性速報、未承認の医薬品の使用）を収集整理し、その結果を医薬品安全管理責任者へ報告する。</p> <p>・担当者の指名の有無 <input checked="" type="checkbox"/>有・無</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・規程の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・診療記録管理責任者は、インフォームドコンセントの実施状況を定期的に確認する。・確認を行なった場合において、その実施状況が不十分と認められるときは、インフォームドコンセントを適切に実施するために必要な研修、指導等を行う。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療記録管理責任者は、診療記録等の記載状況を定期的に確認する。 ・確認を行なった場合において、その記載状況が不十分と認められるときは、診療記録等の記載を適切に実施するために必要な研修、指導等を行う。 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（2）名、専任（1）名、兼任（16）名 うち医師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（6）名 うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（3）名 ※上記以外の職種：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（6）名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. メディカル・リスクマネジメント委員会（以下「委員会」という）が有効に機能するよう具体的な提案事項等の作成及びその他委員会の庶務に関すること 2. インシデント報告を分析し、その結果を委員会へ報告すること及び現場へのフィードバックに関すること 3. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと 4. 事故等について、患者や家族への説明などその発生時の対応状況の確認を行うとともに必要な指導を行うこと 5. 事故等について、その原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。 6. 医療内容についての相談等に関すること 7. 医療安全に係る連絡調整に関すること 8. 医療安全管理に関する職員研修の企画及び運営に関すること 9. 医療安全の推進に関すること 10. 医療安全に係る診療の状況の把握及び職員の意識向上の状況の確認に関すること。 11. その他医療安全に関し必要な事項 <p>医師については、平成30年3月31日までの間、専任医師1名を配置、平成32年3月31日までの間、専任医師2名配置、平成32年4月以降は専従医師を1名配置する。 薬剤師については、平成30年3月31日までの間、専任薬剤師1名を配置、平成32年3月31日までの間、専任薬剤師2名配置、平成32年4月以降は専従薬剤師を1名配置する。</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無） ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療 	

技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・規程の主な内容：

計画書の提出あり

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）

・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・規程の主な内容：

計画書の提出あり

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 監査委員会の設置状況

有・無

・監査委員会の開催状況：年 回

・活動の主な内容：

計画書の提出あり

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）

・委員名簿の公表の有無（有・無）

・委員の選定理由の公表の有無（有・無）

・公表の方法：

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年一件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 1,475 件
- ・医療安全管理委員会の活動の主な内容
 1. 医療安全管理指針及び医療安全管理マニュアルの策定及び見直しに関すること。
 2. 医療事故の判定に関すること。
 3. 医療安全管理に関する改善策に関すること。
 4. 医療安全管理のための職員研修に関すること。
 5. 医事紛争に関すること。
 6. 院内死亡症例の報告について検証・審議し、改善策の立案等を行うこと。
 7. その他医療安全管理上の重要事項に関すること。

⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院への立入り（有（病院名： ）・無）
- ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（有（病院名： ）・無）
- ・技術的助言の実施状況

計画書の提出あり

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
 - ①. 患者相談窓口の活動の趣旨：「医療安全相談室のご紹介」にて院内掲示済み
患者相談窓口の設置状況：窓口名称 医療安全相談室（医事相談窓口），担当者及び相談に応じる職員：医療安全管理部副部長（医事課医療安全係長がサポートします），責任者：副病院長（安全管理担当），医療安全管理部長，相談に応じる時間帯：月～金 8：30～17：15
 - ②. 医療安全管理マニュアル 総論 第6（患者相談）に下記のように定めている
 - 1) 医療相談の受付窓口は、医事相談窓口とする。
 - 2) 医療相談があった場合は、原則として医療安全管理部副部長が対応する。
 - 3) 相談者との面談は、他者のいない個室で、職員2人以上で対応する。
 - 4) 医療相談に携わる職員は、その相談情報の機密保護について厳に注意し、患者等が不利益を受けることがないよう配慮する。」
 - 5) 医療相談を行った場合は、患者等からの相談・苦情報告書を作成し、病院長まで報告する。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）

- ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (有 ・ 無)
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (有 ・ 無)

⑭ 職員研修の実施状況

- ・ 研修の実施状況

計画書の提出あり

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

- ・ 研修の実施状況

計画書の提出あり

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページによる情報発信、病院広報誌の発行 県内関連病院長連絡会議の開催（年1回）	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 チーム医療（外来化学療法チーム、緩和ケア支援チーム、褥瘡対策チーム、栄養サポートチーム等）を実践しており、複数診療科の医師及び多職種のスタッフが連携して対応している。	